

第6学年 図画工作科学習指導案

1 題材 アルミ缶チェンジ (くねくねアート)

2 指導観

○ 本題材は、材料の特徴を生かしながら、アルミ缶を切ったり組み合わせたりして作品づくりをし、場所のもつイメージを変えることをねらいとしている。また、次の4点から、本題材は造形的な資質や能力を伸ばす上で有意義であると考え。

- ・ 軟らかく、簡単に加工ができるアルミ缶を初めて主材料とするため、子どもたちは喜びをもって、自分の表現意図にあった作品を意欲的につくっていくことができる。また、場所のもつイメージを変えるという意識を継続して作品づくりを行うことで、“こんなイメージにしたい”という表現意図を継続して取り組むことができる。
- ・ アルミ缶には、一定の強度がある・色がついている・光を反射する・簡単に切れる・折れる・形状が維持できるなどの特徴がある。また、アルミ缶によっては、色や表面の形が独特のものがあリ発想を広げることができる。子どもたちは、こんな環境に変えたいという願いをもち、材料の特徴を生かして環境の変化を考えることができる。
- ・ 主材料であるアルミ缶は、切る・折る・曲げる・組み合わせるなど児童の表現意図に合わせて形成ができ、つくった形状も維持することができる。
- ・ 製作途中や完成段階で鑑賞することで、互いの表現のよさや美しさを見つけ、自分の作品に生かすことができる。

○ 本学級の児童は、1学期に「わたしの町」の学習で、見慣れた景色の中から自分のお気に入りの風景を絵に表す活動を行った。また、「ユラユラクルクル 針金のクランク

で」の学習ではクランクの動く仕組みを何度も試しながら、その特徴を生かした発想をし、楽しんで作品づくりに取り組んできた。

1学期に行ったアンケートによると、「図工の学習が好きではない」と答えた児童は学級全体の %であった。「好きではない」の理由の %が「絵が苦手」「細かい作業が苦手」という技能面を挙げ、 %が「絵が嫌い」「めんどくさい」という関心・意欲面を挙げた。このことから、本学級の児童には、技能面での支援と、意欲をもたせる工夫が必要であると考え。

また、「自分のかきたいことやつくりたいことが見つからない」児童は学級全体の %であり、その全員が「ものをつくったり、かいたりして環境を変える」経験がなかった。反対に「自分のかきたいことやつくりたいことが見つかっている」児童は、「環境を変える」ことを意識していることがわかった。このことから、表現主題を見つけ意欲をもたせるためには、自分の作品を飾って環境を変えることまで意識した指導の工夫が必要であると考え。

○ 本題材の指導にあたり、アルミ缶などの柔軟金属を主材料として使う題材は、子どもたちにとって初めての体験であるので、アルミ缶を加工する体験を充分にとる。アルミ缶のもつ特徴を整理し、表現段階での意欲や発想につなげる。

次に、“環境をそのまま見た場合と作品を飾って見た場合”や“作品を単体として見た場合と場所に飾って見た場合”の受ける印象の違いを比較させる。作品を飾ることで場所のもつイメージが変わることや、自分が意図する場所に飾ることで作品もより栄えることを学ばせる。自分の変えたい場所を見つけ、アルミ缶の特徴を生かした作品でその場所のもつイメージを変えられるよう、自分の表現意図を言葉で表す。ま

た、アイデアスケッチはどのような特徴を使うのかも意識できるよう、絵や言葉で表現させる。また友だちと表現意図を交流する場面を設定することで、お互いの発想のよさに気づき、自分の発想をさらに深めることができる考える。

自分の表したいことが決まったら、表現意図に沿った作品づくりを行わせる。作品づくりは自分の思いに合った表現が大切であることを伝え、アイデアスケッチにこだわらないでいいことを確認する。どのような作品をつくってイメージを変えたいのかを問いかけ、表現意図を想起させる。製作途中には、同じ表現意図でも違う表現方法をしている子どもを紹介し、表現のよさや美しさを取り入れられるようにする。作品と環境との調和が図れたか、また自分の表現意図に合っているか確かめられよう、自分の変えたい場所の写真を用意する。友だちの作品のよさや美しさなどを感じ取り、自分の作品に活かせるよう、表現の途中には中間鑑賞会を行う。

鑑賞では、作者の表現意図をより感じられるよう、“作品がないそのままの場所”と“作品を置いての場所”を比べさせる。友だちの表現意図を考えさせることで、場所のもつイメージがどのようにかわったのかをより深くとらえることができるようにする。

3 目標

- 自分の表現意図に合うものを、アルミ缶でつくることを楽しむことができる。
(造形への関心・意欲・態度)
- 場所や材料の特徴を生かして発想し、場所のもつイメージを変えることを考えることができる。
(発想や構想の能力)
- 材料や用具を安全に使用して、自分の表現意図に合った作品をつくることができる。
(創造的な技能)

- 自他の作品を鑑賞し合い、材料や場所の特徴を生かしたよさや美しさなどを伝え合うことができる。
(鑑賞の能力)

4 題材における評価規準・指導事項・指導方法 (全6時間)

学習活動	関 意	発 構	技 能	鑑 賞	具体的評価規準	指導事項	指導方法
<p>1. 教科書や参考作品を見て興味をもつ。</p> <p>2. 実際に材料に触れて、特徴に気付く。 (2時間)</p>					<ul style="list-style-type: none"> 参考作品からアルミ缶を使った作品のよさや美しさを感じ取ることができる。(鑑) アルミ缶を加工するための用具を安全に使うことができる。(技) 材料に興味をもち、楽しんでつくることができる。(関) アルミ缶を加工し、様々に変化させることができる。(発) 	<ul style="list-style-type: none"> アルミ缶の安全な扱い方。 <ul style="list-style-type: none"> 作業用手袋をする 切れ端は集める リサイクルばさみの使い方。 <ul style="list-style-type: none"> アルミの切り方 アルミ缶の特徴を味わせ、作品に生かすこと。 <ul style="list-style-type: none"> 一定の強度がある, 色がついている, 曲面がある, 光を反射する簡単に切れる, 折っても形状を維持できる 切込みや接着剤, ステプラーなどで組み合わせることができる 	<ul style="list-style-type: none"> どのような加工ができるのか参考作品を鑑賞させ興味をもたせる。 紙や鉄との違いを考えさせアルミの特徴やおもしろさに気付かせる。 実際に材料に触れ加工することで特徴に気付かせる。 友だちと交流させ, アルミ缶の特徴や発想に気付かせる。 アルミ缶の特徴を整理する。
<p>3. 場所からつくりたいものを発想し, 表現への見通しをもつ。 (1時間)</p>					<ul style="list-style-type: none"> 場所の特徴を考え, イメージを変えたい場所を見付けることができる。(関) 作品を飾ることで場所のもつイメージがどう変化するかを発想することができる。(発) アルミの特徴を使ってどのような作品をつくれれば, 自分の表現意図にあったイメージにできるか考えることができる。(構) 	<ul style="list-style-type: none"> どの場所に飾りそのイメージをどのように変えたいのか, そのためにどのような特徴を使ってどのような作品にするのかを明確にすること。 	<ul style="list-style-type: none"> “場所をそのまま見た場合と作品を飾って見た場合”や“作品を単体として見た場合と場所に飾って見た場合”を比較する。 図工ノートに「どの場所を・どのような特徴やよさで・どのように変えたいのか」をかかせ, アイデアスケッチをさせる。 友だちと表現意図を交流させ発想を広げさせる。
<p>4. 材料や用具を使い表現する。 (2時間) (本時1/2)</p>					<ul style="list-style-type: none"> 場所のもつイメージを変えることに関心をもち, 意欲をもって作品づくりに取り組むことができる。(関) つくりながら新しい発想をしたり, つくりかたを試したりしながら, より表現意図が表れるように考えることができる。(発・構) 材料や用具をつかって自分の表現意図に合ったものをつくることできる。(技) 友だちの作品から環境と関わっているよさや美しさなどを見付けることができる。(鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分表現意図に合わせて作品づくりを行うこと。 ペンチの使い方。 <ul style="list-style-type: none"> 折る, 曲げる, 切る 針金の使い方 場所やアルミ缶の特徴を生かした作品づくりを行うこと 友だちの作品から発想をより広げ, 作品に生かすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの活動を振り返りアルミ缶の特徴を確認する。 図工ノートを振り返らせ自分の表現意図を想起させる。 自分がイメージを変えたい場所の写真を用意する。 似た場所や表現意図の児童でのグルーピングを行う。 中間鑑賞会を設定し, 互いの作品を見合わせる。

材料の特徴を知り、扱いに慣れる

表したいことを明確にする

材料の特徴を生かして表す

鑑賞する	<p>5. お互いの作品を鑑賞する。 (1時間)</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの作品を鑑賞する活動に意欲的に取り組んでいる。(関) ・ 自分や友だちの作品からよさや美しさを見付け、伝えることができる。(鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ どのようにイメージを変えたかったのか、そのためにどのような工夫をしたのかなどの作品紹介をすること。 ○ 友だちの表現意図に気付き、よさや美しさを伝えること。 ○ 場所のもつイメージの変化を意識して作品の鑑賞ができたか自己評価すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ “作品がないそのままの場所”と“作品を置いての場所”を比べさせる。 ・ 友だちの作品を見て場所のもつイメージがどのように変わったのか言わせる。 ・ 子どもがよさを認め合えるような活動提案の工夫を行う。
------	----------------------------------	--	--	--	---	---	--

5 本時

平成 22 年 11 月 日 () 校時 図工室

6 本時目標

- 場所のもつイメージを変えることに興味をもち、楽しんで表現することができる。
(造形への関心・意欲・態度)
- つくりながら新しい発想をしたり、つくりかたを試したりしながら、表現意図がよく表れる方法を考えることができる。
(発想や構想の能力)
- 材料や用具を使って自分の表現意図に合ったものをつくることができる。
(創造的な技能)
- 友だちの作品から場所と関わっているよさや美しさを見付けることができる。
(鑑賞の能力)

7 授業仮説

図工ノートを使って表現意図を確かめられる工夫を行えば、場所のもつイメージを変えたいという思いを継続してもつことができ、場所や材料の特徴を生かして自分の表現意図に合った作品づくりができるであろう。さらに、グループ핑の工夫を行えば、表現意図は同じでも違う表現方法をしているよさや美しさに気づき、自分の表現に生かすことができるであろう。

8 準備

- アルミ缶の特徴を整理した掲示物
- イメージを変えたい場所の写真
- 前時までの学習を見取った補助簿

9 本時の指導と評価の考え方

本時は、場所や材料の特徴を生かして自分の思いにあった作品を、用具を使ってつくっていくことがねらいである。

本時の指導にあたっては、まず、図工ノートや既習の掲示物を使って、色がある・きらきらしている・潰すことができる・切ることができる・形を維持することができるなどのアルミ缶の特徴を確認する。アルミ缶を加工するための切り込みを使った接合の仕方や用具の正しい使い方なども確認する。また、子どもたちは前時の振り返りをする中で、表現意図を確認し意欲を高めることができるであろう。さらに、ペンチと針金の使用方法について教え、自分の表現に生かせるようにする。

次に、実際に作品をつくっていく段階では、自分の思いに合った表現が大切であることを伝え、アイデアスケッチにはこだわらないでいいことを確認する。どのような特徴を使ってイメージを変えたいのかを問いかけ、表現意図を継続させる。表現の途中には、同じ表現意図でも違う表現方法をしている子どもを紹介し、場所に関わっている表現のよさや美しさを取り入れられるようにする。場所との調和が図れたか、また自分の表現意図に合っているかなどを確かめられよう、イメージを変えたい場所の写真を用意する。

最後に、本時の活動の振り返りを行わせる。自分の表現意図や、本時で使ったアルミ缶の特徴などを交流させる。イメージを変えたい場所を意識させることで、作品のよさや美しさを見付けさせ、次時への意欲につなげたい。

10 本時学習における指導事項・評価規準・指導内容

	学習活動	具体的評価規準	指導事項	指導方法
導入 10分	<p>1. 前時までの学習活動を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ イメージを変えたい場所 ○ アルミ缶の特徴 ○ 組み合わせの仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図工ノートや掲示物を見ながら、前時までの学習活動について振り返っている。(関) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの学習活動を振り返り、表したいことを明確にもって、本時の学習に臨むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの活動を想起できるよう、図工ノートや既習内容を振り返らせる。
	<p>2. 本時のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて：アルミ缶の特徴を生かして、場所のもつイメージを変える作品をつくろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあてを確認し、学習の見通しをもっている。(関) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ アルミ缶の特徴をいかして作品をつくろうとしていること。 ○ イメージを変えたい場所と変わった後のイメージを明確にもつこと。 ○ ペンチや針金の使い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習の見通しがもてるよう、どのような特徴を生かして作品をつくるのかを想起させる。
展開 30分	<p>3. 表現意図に合うよう作品をつくっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 用具を安全に正しく使う。 ○ アルミ缶の特徴を生かす。 ○ 飾ることを意識する。 ○ 友だちの表現のよさや美しさも参考にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料や用具をつかって自分の思いに合ったものをつくることができる。(技) ・ つくりながら新しい発想をしたり、つくりにかたを試したりしながら、より表現意図が表れるように考えることができる。(発・構) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の表現意図に合った作品づくりを行うこと。 ○ 場所のもつイメージを変える作品づくりを行うこと。 ○ アルミ缶の特徴を生かした作品づくりを行うこと。 ○ 友だちの表現から、よさ美しさを読み取り自分の表現にいかすこと。 ○ イメージを変えたい場所を想起して、自分の表現を確認すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の表現意図に合わせて作品づくりができるよう、アイデアスケッチにこだわらず形を変え、表現してもよいことを助言する。 ・ 友だちの表現のよさや美しさも読み取れるよう、似たような場所や発想の児童でのゲーピング行う。 ・ 自分の表現意図に合った作品づくりができたか確かめられるよう、イメージを変えたい場所の写真を用意する。
終末 5分	<p>4. 活動を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの作品から場所やアルミ缶の特徴を生かす工夫を見付けることができる。(鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちの作品から発想をより広げ、自分の作品づくりに生かすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の振り返りができ、また友だちの表現意図に合った表現方法が参考になるよう、作品と表現意図を交流させる。

アルミ缶千変ジ

6年 組 名前 ()

①アルミの特ちょうは?? (紙や鉄との違いは?)

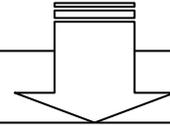
•

②アルミ缶でこんなことができる!!

•

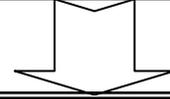
③イメージを変えたい場所

〈写真をはります〉



この場所のもつイメージは?

(な)イメージ



アルミ缶の作品でこんなイメージに変えたいな:

に

を置いて

(な)イメージに変える

(イメージを変えたい場所)

(こんな特ちょうやおもしろさを使ったもの)

☆アイデアスケッチ☆

言葉や絵で表そう

作品名:

◎、○、△、×で書こう

時間	学 習 内 容	振り返り	楽しく活動できた	生かした やおもしろさを	アルミの持ちよう 考えた	場所との関わりを 考えた	友だちの作品から いいところを見付 けた
1 2	○教科書や参考作品を見て興味をもとう。 ○アルミ缶を加工して、持ちようやおもしろさを知ろう。				/		
3	○場所からつくりたいものを考え、計画を立てよう。						
4 5	○材料や用具を使って、作品をつくろう。						
6	○おたがいの作品を鑑賞しよう。						